

## 公共政策ワークショップⅡ 記録

講師：特定非営利活動法人 全国コミュニティサポートセンター  
理事長 池田昌弘

テーマ：誰もが住み慣れた地域で最後まで暮らし続けられる「支え合う地域づくり」

記録作成者：M1 山野節雄

### I. 「民家活用」から誕生した「小規模ケア」が「多機能化」と「共生化」、 そして「ユニット化」「サテライト化」さらには「地域化」へと展開

- 1) 認知症の方をどのようにケアをしていくのかが課題であった。そうした中、機能回復を含めケアしていくプランが進められ、既存施設、病院からの退職者、元介護者、市民が資金もないなかで無認可のデイサービスをはじめた。行政に頼らない住民主体の支え合う地域づくりを目指し、民家を活用し自宅と変わらない住環境を提供する「宅老所」が 1980 年半ばに誕生することとなった。当初、介護の専門家でさえ認知症患者は「何もわからない人」とされており、対応方法の基準が確立されていなかった為、一定の場所に放っておくか、公的な施設であっても利用を拒否されるという状況が背景にあったと想定される。
- 2) 1995 年に「宅老所」をモデルにスウェーデンの取組みを参考としたグループホームが誕生し、1997 年には国により制度化されることとなった。
- 3) 施設の一部では、「グループケア」に取り組むところも現れ、認知症の入居者に落ち着きを取り戻されるという効果が確認され、一定の場所に放っておくという対応から居場所が必要との対応へ変化をもたらした。このところが、職員や家族を刺激し高齢者入居施設の改革への起爆剤となった。
- 4) 地域サテライトケアが誕生  
逆デイケアと呼ばれる「昼は自宅に帰る」という地域が支えるサテライトケアが始まった。しかし、制度化まではされなかった。2006 年に介護保険の改正により、地域密着型サービスが制度化された。全室個室のユニットケアから多床室が認められ新型特養としてスタートしたが、コミュニティーを生まないなど問題も浮上している。
- 5) 多機能化への展開  
本人が望めば住み慣れた地域で普通の暮らしができるように、①通い②泊まり③自宅への訪問支援④長期の泊まり⑤必要な支援などをするための在宅支援が試みられた。できるだけ家に帰れるように地域との繋がりを大切にしている。
- 6) 共生化への展開  
富山型デイサービスとも呼ばれているが、普通に暮らし続けることができるよう、誰もが使える在宅支援の仕組みを作った。要介護高齢者、高齢者に限定せず、必要があれば誰でも昔の大家族のように支え合っ過ごす場をごく自然な形で提供する。  
「このゆびとまれ」という先進的な施設がある。

## II. 制度や専門職だけの福祉ではなく、住民と一緒に築く「支え合う地域」づくりの実際

「のぞみ園」において火災訓練が行われ、サイレンにより周知するシステムが地域住民から提案され、採用されるなど、地域住民が協力する事例が報告されている。イベントも開催されまちの一員として機能している良い参考事例となっている。

他に①福岡県久留米市の三原家②熊本県山都町の下矢部西部地区社会福祉協議会③神奈川県川崎市のすずの会④大阪府豊中市の豊中セーフティーネットなどがある。

## III. 行政を頼らない住民主体の「支え合う地域づくり」の実際

介護保険が、地域の間人関係を壊す事例が確認されている。昼はデイケアなどで留守がちとなり、地域との関わりがなくなり、近隣住民同士の助け合いがなくなるという弊害が報告されている。公費がまちの繋がりを断ち切るという本末転倒の事例である。

①北海道釧路市の地域食堂②宮城県丸森町の大張物産センターなんでもや③鹿児島県鹿屋市の柳谷町内会やねだんなどがある。

## IV. 質疑応答

Q：施設利用者としては自宅で生活を送りたいが、介護をしている家族の意見はどうか。介護する側が仕事を持っているなどそれぞれの家族の事情があるのではないか。家族が施設に入れることを希望しているケースもある。特に紹介のあった事例は、田舎が多く都会でのニーズはどうか。

A：田舎も都会も同じだ。介護保険は使った方がよいとの不調が蔓延している。老夫婦の単身者が増えており、在宅での介護が難しい現状がある。また、ケアマネージャーなどは、家族の意見を尊重しすぎる傾向が見られ、マイケアプランとはなっていない。介護保険の問題点として、本来はできないことを補うための保険であるが、家族が安心を買う為に家族をすてることに繋がっている。

Q：在宅での介護は、地域のボランティア、民生委員の高齢化などによって、成り立ちにくい環境となってきている。

A：在宅医療の先生にいつでも駆けつけてもらえる体制を整える必要がある。救急車を呼と病院から帰れなくなるので、呼ばない方法で対応してもらえるような体制を構築し、併せて最後の迎え方も検討する必要がある。都会の方が、田舎より近隣住民が多いので支え合うことが可能ではないか。近隣住民との距離も近く施設に預けずとも地域で見ることができる。

Q：介護保険が変わってきた。非常に煩雑で、ケアされる方の身になっていない。

A：今の介護保険は、自身でできることを阻害していることもある。また、お金を取ることだけに力を注いでいる。子育てをするように親を見ることが理想ではないか。

以 上